

ふう聞いております。

それと加えまして、今、対馬市では特に国際ターミナルの関係、韓国からいらっしゃる方に200円のターミナルの使用料を徴収しているところがございますけれども、これ等も、今後、ターミナルをきちっと整備した後は、これをもう少し上げていくことも必要であろうというふうには考えております。

○議長（小川 廣康君） 2番、伊原徹君。

○議員（2番 伊原 徹君） 時間参りましたので、観光ツアーガイドの研修事業ということで、やはりこれだけの多くの韓国人の方々が観光にお見えになっているわけですから、しっかりとしたマナーも含めて歴史認識もそうでしょう、研修の回数が少し少ないような気がいたしますけれども、これだけの右肩上がりの受け入れに対して研修が年1回という、非常に少ないと思います。

講師の方についても、交通ルール等、また、検疫のことも重々理解できますけれども、やはり対馬に精通したそうした対馬の観光ガイドさんを現地ガイドで進めるとかいろんな選択肢がございますので、隣国と末永く仲良く、また今後も大いに観光に来ていただけるようなシステムをぜひ構築をしていただきたいと思います。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） これで伊原徹君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 昼食休憩といたします。再開は午後1時ちょうどといたします。

午後0時00分休憩

午後0時59分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。

7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 午後からの一番バッターですけれども、市長、きょうは3点ほどお伺いをします。その中でいろんな提案もさせていただきますので、その提案もしっかり考えた中で、いい答えが出てきますようにひとつ期待をしながら質問に入らせていただきます。

それでは、通告をいたしておりました1点目に、旧いづはら病院跡の利活用について、2点目に朝鮮通信使資料館の設置について、3点目に豆殿尾崎山公園の整備について、また、関連で南部地域の振興策についてもお伺いをいたします。

まず、1点目の旧いづはら病院跡の利活用についてであります。現在、外部団体の経営による特別養護老人ホーム50床、ショートステイ短期療養施設40床が開設され、また、いづはら

病院が難知に移転することによる巖原町内及び南部地域の方々の不安を解消するためのいづはら診療所の開設もされ、大変住民の方も喜んでいるところであります。

また、一部を市役所東里庁舎として健康づくり推進部が入り、業務を行っている状況であります。しかし、まだ空間が多数あり、そこに市長の選挙公約である療養型温水プール及び健康管理器具を設置して、高齢者の方々の健康促進に活用できる施設をつくるということで、現在、有識者による検討委員会が設置され、検討されていると思いますけれども、市長に就任をされて2年が経過した現在、今後どのように進めるのか。また、見直す考えはないか、お伺いをいたします。

次に、2点目の朝鮮通信使資料館の設置についてであります。民間の方々の長年にわたる御苦労が実り、昨年10月に朝鮮通信使に関する記録として、朝鮮通信使世界ユネスコ記憶遺産として登録され、本年2月には国内外の多くの方々の出席のもと、祝賀会も開催され、大きく対馬をアピールできたと思われま。

市長も施政方針説明で、貴重な市民の財産であり、それを後世に伝えていくことは我々の責務であり、この貴重な市民共通の財産に関する情報を効果的に発信し、国内外からの誘客へとつなげていくため、博物館建設を初め、朝鮮通信使案内板設置、記憶遺産登録PR、朝鮮通信使によるまちづくり事業に取り組んでまいりますと言われておりますが、博物館完成後に展示できるものは宗家文書を主体とし、朝鮮通信使に関する資料は一部しか展示できないと考えます。

市長が言われる朝鮮通信使によるまちづくり事業を進めていくには、多くの朝鮮通信使関連資料を展示する資料館の設置は必要不可欠だと思いますが、市長の考えをお伺いいたします。

次に、3点目の豆碁尾崎山公園の整備についてであります。豆碁崎園地は対馬最南端の国定公園にあり、昭和61年に旧巖原町が県費補助を受け、遊歩道、転落防止柵を施工しております。

現在までに何度か修復工事もされておりますが、長年の風雪に劣化しているところが多く見られ、また、魚つき林として松の木も多くあり、旧町時代はマツクイムシ防止のための薬の散布もされておりましたが、現状では風光明媚であった松の木も枯れ、倒れた木は遊歩道を塞ぎ、観光客を受けられる状況ではないと考えられます。

また、キャンプ場も整備をされておりますが、管理が不十分で水道もなく、キャンプ場から海岸におりる海岸は泥で埋まり、観光客が通れるような状況ではないと思いますが、県と一体となって市道尾崎山線の改良、離合場所の設置、キャンプ場の整備、遊歩道、防護柵の整備、豆碁崎砲台跡の整備等、観光客の受け入れ体制を整えることができないか、市長にお伺いをいたします。

また、関連で、市道美女塚線から消防署までの道路拡幅ができないか、これもあわせてお伺いをいたしますが、市長の答弁をいただいた後に、詳細については再質問でさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 船越議員の質問にお答えいたします。

旧対馬いづはら病院施設跡地の利活用につきましては、私も選挙公約といたしまして、施設の一部を療養型温浴施設として改修を行い、高齢者の方々の運動施設や介護予防施設として活用し、市民の皆様の健康づくりにつなげるとともに、同敷地内にある介護及び医療施設と連携して、施設の利用率向上に努めてまいりたいと掲げさせていただいたところでございます。

その後、利活用については、平成28年度に旧対馬いづはら病院改修基本計画の策定を行い、その中で歩行浴などを行う療養型温浴施設の改修可能性等について検討を行ってきたところでございます。改修基本計画では、現状の施設の西側に縦10メートル、横6メートルの療養型温浴施設の設置について、改修基本計画策定委託事業者から提案が行われているところでございます。

施設の改修に当たりましては、市民の皆様のニーズや多くの市民の皆様に使用していただける施設として、どのように活用を図っていくのかということの御意見を頂戴するために、旧対馬いづはら病院施設利活用検討委員会を設置し、御検討をいただいているところでございます。これまで3回の検討委員会を開催し、利活用に関する多くの御意見を頂戴しております。検討委員会では、療養型温浴施設の利活用に関して、施設の配置の問題や建設費、維持管理費等の問題とともに、位置的に高齢者の方々が気軽に利用することは厳しい状況であるとの御意見もいただき、本年度提言書としてお受けすることといたしておりますが、療養型温浴施設としての改修及び利用につきましては、旧いづはら病院施設利活用検討委員会の御意見等を踏まえ、慎重に検討してまいりたいというふうに考えております。

次に、2点目の朝鮮通信使資料館の設置についてであります。昨年4月に朝鮮通信使検証事業会からいただいた朝鮮通信使によるまちづくり提言書を受けて、民間と行政の関係者で構成する朝鮮通信使によるまちづくり検討実行委員会を立ち上げて、これまで展示施設整備、情報発信の部会ごとに通信使を活用したまちづくりについて検討、協議を継続して進めております。

朝鮮通信使資料館の設置につきましては、昨年10月にユネスコ世界遺産に登録された朝鮮通信使に関する資料を島内外にPRし、より多くの観光客を誘致するための中核施設として必要不可欠なものと考えており、その設置に向けて加速して進めてまいりたいというふうに考えております。

朝鮮通信使関連資料館につきましては、朝鮮通信使に特化した施設を検討しておりまして、基本的には博物館に展示を行うような重要文化財を初めとする本物の資料を展示するような場ではなく、朝鮮通信使とはいかなるものであり、どのような役割を果たし、対馬がどのようにかわり、そして一度は世間に埋もれていた朝鮮通信使の歴史がどのようにしてよみがえったのか、記憶遺産登録に携わった皆様の取り組みや朝鮮通信使行列の衣装なども展示し、朝鮮通信使のみで

構築された対馬における朝鮮通信使を象徴するようなものとする考え方であります。

コンセプトといたしましては、この資料館に行けば朝鮮通信使がわかる、朝鮮通信使といえば対馬というようなイメージが持ってもらえるような資料館を目指しております。NPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会と釜山文化財団との日韓の民間団体の努力により、ユネスコ世界記憶遺産登録された朝鮮通信使に関する資料を有効活用することが行政の責任でもあると考えておりますので、本事業推進に際しましては、議員皆様の御協力をお願いしたいというふうに考えております。

続きまして、3点目の豆靨尾崎山公園の整備についてでありますけれども、対馬の最南端に位置する豆靨崎は風光明媚な場所で、ポスターに使うなど対馬を代表する景勝地として、旧厳原町のころから展望所や歩道を整備してきたところでございます。

また、少し集落側には豆靨崎園地として県により昭和59年から60年に芝生広場や遊歩道、トイレを設置し、平成9年から11年にかけて野営場等を整備していただき、維持管理に関する委託を受けているところでございます。この一帯は、豆靨尾崎山管理組合の管理地で、土地利用の承諾を得て整備を行ってきたところでございますが、地滑りや風化による浸食が進んでおり、展望所の浸食や歩道のひび割れ、段差、防護柵の腐食が進んでいるのは承知しているところでございます。

しかしながら、この地滑りや浸食は豆靨崎特有の地質に起因するものであり、全体的にそのような現象が発生しており、根本的な対策が出ていない状況でございます。

市といたしましては、これまで展望スペースを手前側に移設したり、歩道の石垣の補修、土砂の除去など利用者の安全確保のため緊急性の高い箇所の補修等を行ってきたところで、今後も豆靨地区や土地管理者であります尾崎山管理組合と御相談しながら、利用者の安全確保を最優先とした取り組みを行ってまいりたいと考えております。

また、県が整備をしていただいた豆靨崎園地につきましては、軽微な補修が市が対応し、大規模修繕は県が要望を受け緊急性等を勘案し、実施を検討することとなっておりますので、県とも相談をしながら進めてまいりたいというふうに考えております。

なお、キャンプ場の利用につきましては、安全な飲料水の確保ができないため、現在休止をしているところでございます。

関連質問の中で、尾崎山線の離合場所の話がありましたけれども、この件につきましては、市道美女塚線の交差点から公園まで約1.8キロあるということでございますけれども、このところを調査いたしましたところ、途中で離合場所として離合できる場所が4カ所ほどあるということでございますので、土地所有者の尾崎山管理組合様と協議をしながら、このことについては進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 1点目のいづらは病院跡利活用についてでありますけれども、ここは市長の言われるように、温泉水を引き込むというのが前提だろうと思うんです。ところが、温泉の源泉地からそこまでというのは数キロあります。ここを引くだけでもたくさんのお金がかかると思います。その検討委員会で検討されているということですが、恐らく検討委員会の方たちもそういう提案はしてくるだろうと、私もそう思います。余りにも工事費がかさんでくるというのがありますし、また、温泉水を引くにしても例えばプールで高齢者の方たちが温浴をするというふうにしても、指導員が要るでしょうし。そうすると、源泉から遠いわけですから温泉も沸かさないといけないでしょう。あるいは、燃料が高いからチップで燃やさないといかんというような状況も出てくるかなと思うんです。チップを燃やすような機械を入れるにしても、3,000万ぐらいかかります。余りにもそういう設備費がかかり過ぎた上に、維持管理費が多大にかかってくる可能性があると思います。特に近年地方交付税も毎年四、五億円ずつ削減されていっている中、税収も上がりません。そういう中で、この維持管理費というのは一般財源から出していないかんだらうと、補助金はないわけですから。そうしますと、余計に財政を圧迫する可能性があると思います。

そういうことをわかっておきながら、無理してやらないかんという事業では私はないと思う。確かに市長が言われる高齢者の方たちの健康促進に向けて何とかしてやりたいという気持ちはわかります。わかりますが、財政をよくよく考えた中で今から先のことを考えると、一回つくってしまうと維持管理費というのはずっと続いていくわけです。毎年毎年維持管理費がそれだけかかってくるのに、市として財政的にもつわけがないと、私はそう思います。だから、もう一遍そこは踏みとどまって、公約はしましたけれども、できないことは大変申しわけないと、市民の皆さんのためにこれがいいと思って公約に挙げましたけれども、よくよく中を吟味してみるとそうもいきませんというようなことを素直に言って、やはり見直す必要が私はあると思いますが、どうでしょう。お考えをお聞きしたいと思います。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 議員さんおっしゃられるように、私もせつかくの温泉水を利活用することが何とかできないかということが、まず第一点でございます。また、第2点目には高齢化が進んでいる、医療費がふえているというようなことで、高齢者の皆様の健康増進を何とかして助けあげることができないかなという思いから、この温泉水を利用した施設ができないものかということで、私自身も公約として掲げたところでございます。

先ほども申しましたように、今、検討委員会のほうで3回ほどいろいろと議論を重ねられているところでございますが、確かにおっしゃられるように建設費の問題、毎月の維持管理費の問題、

その場所が町なかよりも若干高台にある病院跡地でございますので、そこに行くための足の問題。それと、私が考えておりますのが、普通の温泉じゃなくてあくまで健康増進のための温泉施設ということでございますので、そこに入るためのシステムと申しますか、高齢者の方々がどのようにして入れるのかといったようなところが、まだまだ問題もあるという指摘を受けているところでございます。

この検討委員会のほうも、まだあと2回ほど検討委員会を開かれて、この8月ぐらいには最終的に提言書を出されるというふうに聞いておりますので、私も公約にはしておりますけれども、そればかりに走るのではなく、皆様の意見にも耳を傾けながら慎重な判断をしてまいりたいというふうに考えているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 私もそういうことだろうと思うんです。先ほども言いましたけれど、市長の思いはわかる。しかし、それとこれとは別です。行政の財政を考えると、できることとできんことはあるわけですから、それは市長の決断だろうと思います。しかしながら、前回の博物館の折にも維持管理費がかかり過ぎるということで1回否決した経緯があります。今回もそれをもし上げてくるのであれば、議会の中でもそこら辺は慎重に議論しなければならん問題になってくると、私はそう見るんです。そこら辺もよくよく検討されて、検討委員会の皆さんの御提言もしっかり聞いた中で進めていただきたいなと思います。

もう一つは、そういうふうな施設じゃなしに、東里庁舎に健康づくり推進部が入っていますが、人口の3分の2は美津島、巖原にあるわけですから、豊玉庁舎で業務をしている福祉保険部、これを東里庁舎の中に入れるのも一考だろう、そう考えます。先月、厚生常任委員会がありまして、診療所の所管事務調査を3件ほどやりました。最後がいつはら診療所でしたので、委員会を推進部の会議室で行いましたけれども、その折、推進部の部屋を見させていただきました。大きなペットボトルを半分切ったやつ、これが窓際に並べてある。部屋の中にも並べてある。これは何ですかと言ったら、雨漏りがするからそれを受けているんですという。雨が降った次の日は職員みんなで掃除しないとイケない。職員の方たちに気持ちよく仕事をしてもらうには、環境はしっかりしてあげないかんと思います。これは健康づくり推進部の部長から言われたわけじゃない、私が現地に行ってそれを見た感想を市長に言うわけですが、こういうこともあります。健康づくり推進部は59名です。福祉保険部は四十何名おられると思いますが、それを集めて110人ぐらいになると思うんです。福祉保険部をそこに持ってくるというのも、1つの一考かなという考えもあります。そこまで御答弁をいただけますか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 実は私も先月東里庁舎のほうに出向きまして、中の様子も見させていた

できました。確かに雨漏り等がひどい状況で、職員の健康状態を危惧しているところでございます。そういう中で、今議員さんから提案がありました福祉保険部のほうを東里庁舎に移したらどうかという提案でございますけれども、福祉保険部につきましては、合併当初の関係もございまして、新庁舎として集中をさせる場合はそういったところを考えていかななくてはならないと考えておりますけれども、ただ今すぐに豊玉庁舎から巖原東里庁舎のほうに移すということは、病院のほうも検討委員会で協議をされている中でございますので、それらの意見を総合的に聞きながら、判断をしていかななくてはならないというふうに考えているところでございます。

私自身の中には合併当初の分庁舎の考え方があったというようなことがまだ残っておりますので、そここのところについては慎重に判断をしてみたいというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 合併してもう14年です。状況も変わっています。だから、そこら辺をしっかりと見極めた中で市の仕事が効率的にいくような方法もしっかりと考える必要があるかと思えます。今言われましたように、検討委員会が検討されておることですから、そこの中での答弁というのは難しいと思えますけれど。それも一考として余地はあろうかなと、私はそう考えます。ひとつよろしく願います。

それから、もう一点は先ほどの雨漏りです。副市長、予算をとって直してやってください。どうでしょう。やはり同じ職員でありながら、朝行ったら雨漏りの水を拭かんと仕事ができせんというような環境で頑張れ頑張れ言うたって、頑張れません。朝掃除をするだけでくたばりますから。ちょっと検討してみてください。何か首振らんね。横じゃないね、縦に振ってってください、お願いします。

それともう一点は、市長、いづはら病院の跡のことなんですが、もう一つの御提案は、今、漁火公園のところが温泉源です。その横にワークハウスほのぼの、施設があります。ここは米寿会さんがやられているわけですが、旧町時代にソーイングというところが企業誘致で来ています。ここが昭和63年に入って、それから10年でしたから平成10年には撤退しているんです、閉鎖して。それから後に米寿会さんが入っているわけです。米寿会さんが今おられるところというのは、市の土地なんです。建物は米寿会さんのものです。土地は、市が無償貸し付けしておるんです。これが20年契約なんです。そうすると、13年からですから33年の3月25日で切れます。それを大変申しわけないことですが、米寿会さんのほうを旧いづはら病院跡地に移転をしていただいて、そしてそこに温泉施設をつくる。そうすると、温泉源はすぐ横です、二、三十メートルです。そうすると、十五、六年前に巖原町時代に掘った温泉が、15年たってもまだ足湯にしか使われておりません。これを有効に使う必要があろうということで、市長もいろいろ模索されたと思うんです。1つの方法として、そういうふうな方法もあろうかと思えます。20年

の契約ですから33年の3月25日です。あと2年もありません。ですから、米寿会さんともよくよく協議をした中で、御理解をいただいた中で話だろうと思えますけれども、そういうことも考えられると思います。温泉源を利活用するには、そういうことも含めた中で検討をしていただきたいなと思います。答弁をよろしくお願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私も議員さんおっしゃられましたほのぼのの土地の件はよくわかりませんでした。そういうこともありまして、温泉の利活用ということは私も強い思いを持っておりますので、これは1つの参考といたしまして、自分の中でもいろいろと考えを練ってみたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） いろいろ御提案申し上げましたけども、検討委員会が立ち上がって検討されておるということですから、先走ってこちらがどうのこうのというわけにはいきませんが、1つの方法としてこういうこともあるよということを市長に提案をしておきますので、そこら辺も頭の中に入れて、今後、利活用を考えていただきたい、このように思います。

それでは、次に2点目の朝鮮通信使の資料館の設置なんですけど、話を聞いてみますと、朝鮮通信使の展示館というのは、民間の方が記念館をつくらうかというような話も出ておるんです、実は。民間の方がそういうことまでやるというのを見ておいて、市が何もできませんというわけにはいかんでしょう。長年かかって民間の人たちがこれだけ一生懸命になってやってくれた厚意に報いるためにも、行政として資料をしっかりと展示する資料館というのをつくる必要は私はあると思うんです。

一つは本庁舎の奥に行きますと、老人憩いの家があります。あそこは今誰も住んでいない。ところが土地は社会福祉協議会、建物は病院企業団、今誰も住んでいない。建物自体は病院企業団に話をしに行けば、話ができないはずはないと思うんです。あそこら辺に史跡も固まっている地域ですから、金石城もすぐ横ですから、博物館もそこにあります。まちの中心はそこですということになってくると、場所的には一番いいのかなと思います。広さも結構ありますので、資料館としてそこを展示館としてそういうことを私は考えますが、市長の答弁をお聞きしたいと思います。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この朝鮮通信使資料館を私たちが計画いたしましたのが、議員さんがおっしゃられたように、まさにこれまで民間の方たちが苦勞されてユネスコ登録に結びついたという中で、資料館まで民間の方にお世話になってはならないという思いがありまして、自分たちがつくらうということでもいろいろと屋敷も準備をされていたようでありましたけれども、ぜひこの

件につきましては市のほうでつくりたいというようなことで御理解もいただきまして、市のほうが準備を進めているところでございます。

そういう中で、場所といたしましては、議員さんおっしゃられたように私自身も病院の宿舎跡地が一番適当じゃないかなというような思いで、今いろいろと内容等を詰めているところでございます。もうしばらくしますと、ある程度建築が完全にできるというようなことになれば、また議会のほうにも御相談申し上げて、予算等を組み立ててまいりたいというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 思いは一緒だと思うんです。民間の方がそこまでやるのに大変な御苦労をされて、やっとここまで来た。当の対馬市はどういう対応をしているのかということになってきますと、横断幕が各庁舎にあるんです。空港、それから港にある、今見えるのはそれぐらいですか。せっかく世界記憶遺産に登録できたわけですから、もう少し力を入れて。老人憩いの家はそう難しい問題じゃないと私は思うんです。中の改造費はかかりますけど、それはかかってもしょうがないと思います。それこそ、そういうところは民間に任せてもいいんですから、一つ検討をして早急にそれができるように力を出してみてください。韓国にしてみると、韓国は復元船を2億3,000万の国の金を使ってやりますよとやっているのに、当の対馬は何もやっていませんということになるんです。それは市長の心意気として、いやいやそれはやるよというぐらいのことをしっかりとやっていただきたいと思いますが、いかがですか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほども申しましたように、私自身といたしましても、これは民間の方にそこまでお世話になるわけにはいかないと、何とか行政のほうが先導してやるべきだという強い考え方を持っておりますので、ぜひその方向で進めてまいりたいと思います。

また、釜山におきましては政府がいろいろな資料館等を計画しているようでもございますし、対馬市といたしましても、日本国内での初めの寄港地としても、この朝鮮通信使は重要なものだというふうに考えておりますので、ぜひその方向でスピード感をもって進めてまいりたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） スピード感をもってやっていただくということですから期待しておりますので、よろしく願います。

それでは、3点目の豆駝尾崎山公園の整備についてであります。市長、そこに写真をお載せしておると思うんですが、現状はそういう状況です。これは民間の方に撮っていただいて、それを市長に見ていただいております。この一般質問をする前に3回ほど行きました。くまなく見てきました。これは観光客に来てくださいというようなところではないんです。ところが、豆

毘崎の先端に行くと、270度のパノラマがあるんです。東には壱岐です、西にはちょっと遠いですが、でも済州島があります。朝日も夕日も見えるところなんです、あそこは。砲台跡もあそこにあります。砲台跡も草ぼうぼうです。そういうのを、一つ一つ整理をした中で、地域のそういうものをどうすれば観光地の目玉となって売ろうとしていくんだという計画をつくってください。きょうが終わりますと、中対馬振興部の未来づくりアクションプランの説明があると思うんですが、中対馬は中対馬で、和多都美神社、烏帽子岳があります。ここも年間十二、三万人の観光客が入っておるとい話も聞きます。上対馬は上対馬で、上対馬振興部でしっかりと計画がつくってあると思いますし、また土木事務所もありますから、振興部、振興部でしっかりとつくっていつているんです。

ところが、本庁関係のことになってくると、そこが見えてこないんです。対馬を全体的に見てみますと、対馬というのは日本の縮図だと思うんです。南北に長いわけですから。南北に82キロ、東西に18キロ、そうすると面積で約708平方キロメートルです。その中に山林が9割あるわけですが、そういう島でありながら、集落、地域に昔からの伝統と民俗と風習というのがずっと残っているところがたくさんあるんです。その中でも豆敷地区というのはそれが一番残っているところなんです。国道沿いは確かにみんなよくなってきている。特に今、比田勝がよくなっていますので、これはありがたいことなんです。そうすると、中対馬のほうでもそういうプランをつくって、そういうふうな計画で進めていくと思われま。巖原にしますと、巖原は首都機能をしっかりとつくっていつているので、これも二、三年後にはきれいになってくると思うんです。

そうしますと、何か忘れていませんか。私が言いたいのはそこなんです。対馬というのは長いんですけれども、巖原でストップして、巖原から比田勝までの間は栄えていきますが、南の豆敷というのを忘れていませんかと言いたいです。これだけの民俗と風習と文化がありながら、こういうところを忘れたままにして、こちらだけいくというのはおかしい話です、私に言わせたら。観光客を1泊でも多く泊めろということを市長は言われます。南のほうまでしっかりとその観光客を延ばさないといかんわけです。延ばさんことには、今の現状を見てみますと、あれでは延びません。来てくださいと言えません。

私もざざっと書いたんですが、豆敷地区にたくさんあるんです。ほかの地域にはないようなやつがたくさんあります。隠ス山自然公園、にほんの里100選に選ばれているところです。それから、金剛院があります。ここには88カ所ありまして、弘法大師の誕生日が6月15日、この前ありました。隠れキリシタン地蔵というのがあって、地蔵さんがたくさんあるんです。その中に十字架が入っている地蔵さんがある。そういうのも皆さんなかなかわからんと思います。それから、多久頭魂神社があります。美女塚、これは鶴王の神話があります。それから、日本最古

の灯台、赤米神事——天皇の献上米にもなりましたが、これは1,300年前から伝わる赤米神事というのもあるんです。この赤米神事をやっていく指導者も後継者もおらんわけです。これも廃れてしまいます。それから、多久頭魂神社の宮司さんも亡くなられて、今かけ持ちで来てもらっている。だんだん限界集落に入ってしまうよるんです。どこで歯どめをかけるかということなんです。

次に行きます。雷神社があります。これは亀トで鎌倉時代には朝廷からのお呼びがかかったというぐらいの亀トの神事がある。それから、みかんの里があります。みかんはここだけです。檜ぼの遺跡、保床山古墳、主藤家住宅もあります。龍良山の原始林があります。浅藻のほうに行くところと八丁郭があります。それから、ことし特に目立ったのが、シバザクラ園、芝桜を民間の小森さんというところの畑に植えているんです。それが一面に咲いているんです。ことしインターネットに載せたら3,000人ぐらい来ているんです。小森さんの奥さんが大きなタンクを持っていて、コーヒーや何かを出してやるんです。水が足らんぐらい、来客者が多くて。それぐらい来る人はしっかり来ていただいている。だから、しっかりとそこら辺を見直していただきたいんです。何で豆酏だけ、巖原以南のところの豆酏にいいものがあるのに、何でそこには目をつけないんですかと言いたいんです。答弁してください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） おっしゃられるように、豆酏地区には赤米神事や伝統行事の亀ト関係を初め、多くの継承する文化が残っているというふうに考えております。今、議員さんがおっしゃられたように、私たちも北部地区、中対馬地区もそれぞれ振興策等を考えておりますので、この下地区につきましては、巖原地区、雞知地区を初め、この豆酏地区も有望な観光地として今後計画等をまとめていかななくてはならないなというふうに感じております。

そういうことでございますので、まずは地域マネージャーも中心として、地域づくり計画を計画としてまとめながら、この豆酏地区の全体計画を練り上げていくようなことを、今後指示してまいりたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 時間がなくなってきましたが、話に熱が入るものですから時間がすぐにたつんです。

南部地域の振興策については、地域マネージャーもおるでしょう。しかしながら、本庁のほうでしっかりと聞き上げて、私も四、五年前から南部地域の振興策というのはやっていますけれども、いまかつて実現したものは何もありません。何もない。いいと思います、いいと思います言うけど、結局は何もなっていない。だから、真剣に取り組んで、対馬全体が観光で潤う島にできるように、力を出してみてください。

それから、もう1分ありますので、美女塚線が来ています。それから、尾崎山線が部落から行っています。美女塚線とつき当たって尾崎山に行くんですが、その美女塚線から雷神社の通りがあります、消防署のあの通り。ここを広げれば、バスはその地域の中に入ってくるんです。今、動脈が切れるんです。バスが来たら、美女塚を通過して、尾崎山を通過して、豆敷崎に行くんです。ところが、そこからUターンして美女塚の本道に出て入ってくるということはないんです。そこには一本幹線の道路が要るんです。ぜひそれも検討していただくようお願いをしておきます。

全体的に南部地域を、観光客が対馬全島を回ってもらえる、そこが忘れられておるものですから、そこをしっかりと観光対策やれるようなことを組み立てをしてみてください。決意をどうぞ、よろしく申し上げます。

○議長（小川 廣康君） 時間がまいりましたので、簡潔にお願いします。

市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 雷神社からの横の道路ですよ、たしか私の聞いているところでは豆敷16号線というそうでございます。ここににつきましては、今後の検討課題とさせていただきたいと思っております。何せ川幅が狭く、今の現道も3メートルもないといったことで、家も建ち込んでおりますし、家の移転もなかなか移転先がないということで、厳しいような状況だということ聞いております。

また、この南部地域の観光計画につきましては、今おっしゃられたように、そこら辺のプロジェクトチーム等をいろいろ立ち上げて、検討を進めていきたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。時間が来ましたのでお願いします。

○議員（7番 船越 洋一君） もういろいろは言いません。しっかりプロジェクトチームをつくるということですから、ひとつ今後とも南部地域を忘れないように、対馬全島が全体が見えて、その中で観光ができるようにひとつしっかり考えてみてください。よろしく願いをしておきます。終わります。

○議長（小川 廣康君） これで、船越洋一君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩をします。再開を2時5分からとします。

午後1時51分休憩

午後2時03分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。

15番、大浦孝司君。